

# 学 会 報 告

## フォーラム 2020 : 衛生薬学・環境トキシコロジー開催報告

佐藤雅彦 (衛生薬学講座)

公益社団法人 日本薬学会 環境・衛生部  
会主催の学術年会である「フォーラム  
2020 : 衛生薬学・環境トキシコロジー」の  
実行委員長を務めることになり、2020年9  
月4日(金)～5日(土)に、誌上発表とと  
もにWEB会議ツールを用いて開催した。



新型コロナウイルス感染症の影響で多くの学術集会在中止となっていたが、「フォーラム 2020 : 衛生薬学・環境トキシコロジー」については、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえつつ、流行が夏までに収束することを見込んで、名古屋駅前のウインクあいち(愛知県産業労働センター)にて開催する予定で準備を進めてきた。しかしながら、流行収束の兆しは見えず、更なる感染拡大の様相を見せていたことから、開催1ヶ

月前に本フォーラムを対面式ではなく、誌上発表およびWEB開催に変更することにした。また、韓国薬学会 予防薬学部会との学術交流(招待講演、日韓次世代シンポジウム)は残念ながら中止とした。なお、情報交換会(懇親会)も中止とした。

「フォーラム 2020 : 衛生薬学・環境トキシコロジー」は、今回で45回目を数える歴史ある衛生薬学・環境毒性学・健康科学に関する学術集会で、疾病の予防、健康維持・増進、化学物質の相互作用・複合影響も含めた安全性評価など公衆衛生の向上に関する学術および研究の推進に目標を置き、関連する基礎並びに応用分野の研究者の研究発表、知識交換および研究者相互の連携の場を提供することを目的として活動を行なっている。したがって、衛生薬学は、健康増進に寄与することから、予防薬学においても欠かせない学問分野である。



「フォーラム 2020 : 衛生薬学・環境トキシコロジー」では、『人々の健康を支える衛生薬学研究』をテーマとして、特別講演2題、教育講演1題とともに4テーマでのフォーラム(シンポジウム)を企画した。さらに、

一般演題を募集して口頭発表およびポスター発表を行った。一般講演では、口頭発表 23 演題、ポスター発表 101 件が行われた。参加者も 240 名を超え、盛会のうちに終えることができた。



特別講演 I では、上原 孝先生（岡山大学院・医歯薬）に「環境化学物質の生体内標的探索とその作用機構」を、教育講演では、山崎裕康先生（元 神戸学院大・薬）に「食品衛生を振り返って 一食の安全確保を巡る課題一」を、それぞれ誌上発表していただき、特別講演 II では、姫野誠一郎先生（昭和大・薬／徳島文理大・薬）に「毒・薬・栄養としての金属元素 一セレンとヒ素に注目して一」を講演していただいた。また、「フォーラム I: 衛生薬学分野における脂質研究の最前線」では、熊谷 剛先生（北里大・薬）と桑田 浩先生（昭和大・薬）に、「フォーラム II: 新たな活性酸素シグナルによる生体応答の制御」では、熊谷嘉人先生

（筑波大・医）と松沢 厚先生（東北大院・薬）に、「フォーラム III: 衛生試験法・注解 2020: 試験法の妥当性確認」では、穂山 浩先生（国立医薬品食品衛生研）と藤原泰之先生（東京薬大・薬）に、「フォーラム IV: 薬学領域における生命金属科学研究 Up-to-date」では、小椋康光先生（千葉大院・薬）と藤代 瞳先生（徳島文理大・薬）に、各々オーガナイズしていただき、今後の衛生薬学分野の発展につながる最新の研究課題に関する討議が行われた。

「フォーラム 2020: 衛生薬学・環境トキシコロジー」は、誌上発表および WEB 開催ではあったが、全国から多くの環境・衛生に関わる研究者、大学院生並びに大学学部学生に参加していただき、各々のセッションで活発な討論が行われ、充実したものとなった。

また、本フォーラム期間中には、衛生薬学・環境毒性学・健康科学領域で優れた学術活動を行ってきた研究者を対象として、【学術賞】松沢 厚教授（東北大学大学院薬学研究科）、【部会賞（金原賞）】外山喬士助教（東北大学大学院薬学研究科）、【優秀若手研究者賞】横沢拓海氏（東北大学大学院薬学研究科）、山川寛人氏（筑波大学大学院人間総合科学研究科）、岡野良祐氏（熊本大学大学院薬学教育部）、【新人賞】青木一浩氏（東京理科大学薬学部）、佐伯奈々氏（静岡県立大学薬学部）、蘆田 諒氏（東北大学薬学部）、【実行委員長賞】鍵 智裕氏（東北大学大学院 薬学研究科）、関根僚也氏（東北医科薬科大学大学院）に各賞が授与された。さらに、学術賞受賞者の松沢 厚教授には「内外環境ストレスに対する生体応答シグナルとその分子制御機構の研究」、部会賞

(金原賞)受賞者の外山喬士助教には「メチル水銀の炎症性サイトカイン発現誘導を介した脳神経傷害機構」の演題で受賞講演をしていただき、多くの参加者が本分野の先駆的研究内容に接する機会となった。



最後に、「フォーラム 2020：衛生薬学・環境トキシコロジー」の運営にあたって、会場スタッフとして手伝っていただいた愛知学院大学薬学部の教員および大学院生に謝意を申し上げたい。また、本フォーラムへ過分なる助成金を贈呈していただいた愛知学院大学薬学会に「フォーラム 2020：衛生薬学・環境トキシコロジー」事務局一同、深甚なる謝意を表したい。

## 【フォーラム 2020：衛生薬学・環境トキシコロジー】

### 1. 実行委員長

佐藤 雅彦 (愛知学院大学 薬学部 教授)

### 2. 主 催

公益社団法人 日本薬学会 環境・衛生部会

### 3. 会 期

2020年9月4日(金)～9月5日(土)

### 4. 誌上発表およびWEB開催

本部：ウインクあいち

(愛知県産業労働センター)

### 5. フォーラム企画

特別講演：2題

教育講演：1題

フォーラム(シンポジウム)：4題

### 6. 一般演題

口頭発表：23題

ポスター発表：101題

### 7. 参加者数

241名(内訳：一般167名、学生74名)

### 8. 参画機関

共催：日本毒性学会

協賛：日本衛生学会

韓国薬学会 予防薬学部会

### 9. 学術集会助成

愛知学院大学 薬学会

公益財団法人 大幸財団

### 10. 広告・寄附

広告掲載(要旨集、ホームページ)：18社

寄附：5社

### 11. 事務局

事務局長 徳本真紀

事務局次長 李 辰竜

愛知学院大学 薬学部 衛生薬学講座